



大阪市教育局

教育長 多田 勝哉 様

2024年7月15日

大阪市退職教職員の会

会長 永吉 茂夫

要請書

貴職には、大阪市の教育の充実及び問題解決のためご尽力されていることと存じます。特に今年度より、年度途中での欠員補充が円滑に行えるよう「特別（専科）教諭」として65名を新規採用するなど注視すべき新たな事業も始まっています。

さて、私たちは、従前、大阪市の教育に携わったり今なお現場の要請に応え、何らかの形で教育に携わっています。

子どもたちのいじめや不登校は大きな問題になっています。教員志願者の減少や、「定額働かせ放題」と指摘される長時間労働は温存されたままです。心を病む教職員の増加、子どもたちと心を通わせようと、体をいとわず日々葛藤する教職員の疲弊ともいえる現状を、退職者として見過ごすことはできません。

子どもたちの豊かな成長、保護者、市民の期待に応える魅力ある学校づくり、のびやかな学びの場の提供、働きやすい教育現場の実現のため、以下要請いたします。

1. 教職員の未配置、教職員不足が大きな社会問題となっています。一番被害を被っているのは子どもたちです。教育予算を増やし、正規の教職員を増やすよう強く要望します。
2. テスト漬け・競争主義の教育が子どもたちを苦しめ、不登校などの要因となっています。大阪市版「チャレンジテスト」「大阪市小学校学力経年調査」の廃止を求めます。
3. 教員の持ち授業時間（コマ数）の上限規制とその削減を求めます。
4. 本年度、中学校教科書の採択にあたり、戦争美化・改憲誘導の教科書を生徒に渡さぬよう、保護者、市民の願いに応え、教職員など教育現場の声を尊重されること。
5. 万博現場で爆発事故があり、その安全性が確認されていません。熱中症対策や行き帰りの交通状況の安全性にも不安が残っています。現地での活動内容や活動時間や場所も決められないまま、招待事業への申し込みだけが、上意下達で進行しています。教育課程上大きな問題を残しています。
教育と安全性より、「万博動員」の色彩が濃い学校単位での万博招待事業の中止を強く求めます。